

いそまるとうろう 磯丸灯籠

伊良湖神社は4月の「おんぞまつり」や大晦日のおおみそかの「ごせんだら」でよく知られています。

神社に入り玉じやりの道を進み、左に曲ると右まががわに神馬（白い馬）が小屋の中に入っています。その白い馬を過ぎて階段をのぼった左右に、石で造られた大きな灯籠が二つあります。

この灯籠は、浜松や三河の宿場の皆さんが、奉納したものです。古い記録には、磯丸のまじない歌によって、天竜川の水害が静まったり病気が治ったりして、多くの人々が助けられ、磯丸の歌の効果に感謝して、灯籠を奉納したことが書かれています。二つの灯籠は「磯丸灯籠」と呼ばれています。



とうろう
磯丸灯籠

く い ら ご 磯丸の暮らした伊良湖

磯丸が暮らした当時の伊良湖村は、明治39年(1906)に村のすべてが陸軍の「伊良湖射場」として買い取られ、現在の伊良湖集落へ移り住むこととなりました。このとき、それまでみやまにあった磯丸が氏神様として大切にし、お母さんの病気がいふくねがはだかまいみょうじん じんじやの快復を願って裸参りを続けた伊良湖明神(神社)も同様に現在の場所に移っています。



みょうじん
むかしの伊良湖明神